丹鶴叢書

萬代和歌集 十二 十三

117
105
2

東京圖書館

和書門 類 函 架 號 冊
甲 別 二 二 一〇五

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

萬代和歌集巻第十一

故柿原芳埜納本

柿原家蔵

戀ふるこゝろ二

經年戀

京極前宰相自太政大臣

續後撰戀二 題不知

ほとゝぎす思ひなるゝもろともにふるかひありの一こゑもがな

左近中將井手

けふこずは逢ふ事かたき五月雨の名よりもしるき袖の色かな

前右兵衛督

有明のつれなくみえし別れより暁ばかり憂きものはなし

左兵衛督内大臣

夢のあふ事を何ふさくまも袖ぬらすうつゝの人の心ならねば

続後撰恋二

永享四年内裏歌合の時

太宰大弐藤原長資

新続古今恋五　兼房朝臣

続古今恋二　題しらず

後鳥羽院法皇

続後撰恋一　さいしやう

後法興院内大臣

続後撰恋一　題しらず　の続後

後法興院前関白太政大臣

同恋一　題不知

皇太后宮大夫俊成

玉葉秋上

太宰権帥経信

続古　恋のおとゝよめる

うつゝとも夢ともいさや思ひそめしこゝろのほどのわすれがたきを

しのびける人のもとにつかはしける

たいしらぬ　小野

思ひたえものうき物とおもふまの玉のを六いくたの水

続古今恋三

うつゝともあさましきまでをもふかな夢ともしらぬ人のこゝろを

二條院讃岐

うつゝ共夢共物を思ふ身は

いくそたび我のみ音もなき

右京大夫　宅隆　一本

夢ぢにて見るみ音もうつゝにも

源雅重朝臣

昔ともむかしふるのゝあさもよゝ

おもふ事ありとを

心ばせの事ありといくよへて

源三位頼政

新千載恋三

くれなゐの八入の袖をしぼりつゝ

人こそ知らね乾く間もなし

権少納言俊忠家

修理大夫顕季

いそのかみふるのやしろのゆふしでに

神をぞかけてたのむべらなる

太宰大弐重家

今よりもなをあさからぬ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2　　ガラス使用

恋のまよひ中ふ　宣秋門院丹後

王葉恋三
ほとゝぎすなきつるかたをながめてもたゞ有明の月ぞのこれる

清水ヲ納ス

同恋三
いくそたひ恋しきことのまさるらむ中〳〵よそにあはさりしより

遇恋

小侍従

同恋二
逢ひ見ぬ人を思ひそめてしよりのちはたゝ明暮と思ふ外なし

寄月恋

読人不知

恋ゝとゝあまをかこつる人もあるを月ゆへもらひやなみたくむ

千五百番歌合のとき

後京極摂政前太政大臣

うき〳〵ことをみをつる涙川ふちとはいつかしるへなるらん

恋のこゝろを

おもふてふことをかぎりの泰議宣経

かくとだにまだしらせやのこりなんいけるかひなきものゝ思ひは

千五百番歌合

小野町

続後撰旅

袖のうのもとゝろをしらぬ旅ねしてあかぬ別れをかこつ比かな

寄月恋

まふ人の性法師

続後拾遺恋三
いのちあらは再のあふ事もやとおもふ心の絶てはかなき

こゝろ

ふるさとをこゝろにかけてしのふれはいとゝ昔の袖ぬれにけり

まつ人

京極為兼卿息

ふるさとをこゝろにかけてしのふれはいとゝ昔の袖ぬれにけり

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

宣耀殿女御

玉葉恋三
いきてのみ世をそむきての後のもはぬ鳥ま
でも悲

同恋三 女御義原芳子
枝もなきうきものもふかそへ
ゆきてのみひとりまさりし
そこまる

続後撰恋三
あふことはさらにもいはじ数ならぬ
身をたのめたるけさの風
なにくをみく

大納言経光

玉葉恋四
うきてしもまつ秋きやまのぬれもぬ
こまで又くる人のあるこそ我つ

二條院讃岐

源雅重

玉葉恋三
たいしらも

徒後撰恋三
おもひの更てそくてまつ
鳥の初ねもつれ

上西門院兵衛

守もあへぬなといそらんまて秋深くる秋そ
後朝恋のそらを
なそもかくのみ

新千載恋三

ものおもふころとそのちぎりおきつつ

業平朝臣

筆のあとをやとりとめつつ

続古今恋三

海のおのへをゆくふねをよめる

よみ人しらず

女のもとへまかりけるに、ほどへてかへりまうできたりけるを、門をあけさせてまたせけるほどに、

続後撰恋三

いそべより鳥の帰らむ空ながら

業平朝臣

言ふにて親を見る良家

新千載恋三

下もえをおもふ鳥のこゑよりも

女のもとにまかりけるに、あけがたにかへりまうできけるを、

重之

菊花の反たる

なるもとくはさくらめやとこそ（八二本）

たいしらる

大納言実家

暁の雪とや雪といなづまを

百そぢのもとにまつとなる

かるるをもおのがさぬなる

旅縁短

サ羽内侍

一あふさきもかつあつさきの

おく鳥恋

いふもんをふたるのをうらめしと

薄原長保

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2　　ガラス使用

新千載恋四

わがこひ人の中なるみそ川の
　　おとにのみ
こやくらん川をの音のよともあめそそのつ
おほく女のかたらふこそ
　　長能
山ぢのかや日のくれぬとてくるしまれおきふせるのあ
　　雅一本
なのみそれ吹ものは伊勢つらふ
　　藤原惟成
玉ぼこのたちとまるもそらつるものもそうきあ
人のこそれつるまる

月の新十　さ同上

月とはめ八夜ことみ一夜のよもすがらそぬと
後法性寺入道前関白右大臣の時はつかふ後
　　新恋
　　皇太后宮大夫俊成
玉葉恋三
かつるさ八伊とのこ月よそへてあその月
　　従二位家隆
　　玉ぼこの井手
このるもののおもとなるたのむこをみのもそ月をまそ
　　従二位行家
　　読人しらす
あつさのつさ八おもそひなるつまとふるなるかもむ
　　従二位行房朝臣

新後拾 大江の羊左ミの〳〵りくふきぬつの

まくらとめくるまてもとまらぬ袖の月

月まてきおく人のこゝろをいまこゝにふるさとまてもとふ

くれ竹の

庚葉恋二

おもてをふせてもあらす

床のうへの花もむかしの春の月

きみこすらす

あまもるもるてきまてもかくれぬ袖の

たいしらす

清慎公

中納言

新後拾遺別

の新後拾 末

洞院摂政家百首歌

後法性寺入道前関白右大臣の時の百首歌

続給遺恋三

徒然

皇嘉門院尾張

深仲綱

続後撰恋三　題不知

大納言胡光

玉ゐるまくもゆる秋ふいてくるしくもとくるそのつてをみこのふ
仁名のよるくるものもうくるそ秋ふかきこゑ
んあてなるそてくるる乱たのつるもるそ玉菊のも
後朝女のそふくるしきそ
中納言定
王葉恋二
大后宮大夫俊成
いくるをむいくるのをまいくるぬくるなくるつるそのあくるん
（モナシ）
ゆくくる
よみもくるん
同恋二
いくるまくるるのなおそくるひのやそふ我そあもむる（八王）

方

続後撰恋三

時そおくるそきぬふくるぬ
別恋
まるのたるぬの浪よるも時なのおそめるむ
恋ひまるみ侍る中
雁鳥百院拾家
時公ひてもぬる秋の浪ふのそくるまめ
入道前摂政家杖三十首
尚侍家中納言

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

続後撰恋三

おもひなるこれもあるべきの月ごろとりまぜて
ものを

きぬぎぬの名をも人見ぬ月ぞなき
洞院摂政家百首 後朝恋

藤原為家朝臣

新後撰恋三

在明の月もそらみたのまれぬ（み 新後）
（また同上）

続後拾遺恋三

おもひあまる俤もさらに出るをの
ものふもけるまゝ女のかたくいむ

前関白内大臣

続後撰恋三

おもひかへすこゝろのをそれ
うらみ

よるみえしらす

同恋三

さもあれこれをぬるかたつまそ
のもまたなき女のかたつまそ

（その続後）

清原元

おもひのほかなる恋をする人の
後朝恋のこゝろを

堀河右大臣

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

なまる小

みをもおもへぬ名はおほの浜二位家隆

(あうめイ)　(ヨ一本)

影しらす　　和多武峰

そせうのやとをおもはぬ人もまた

浪のこさとにみのるよはかな　皇太后宮大夫俊成

新勅撰恋三　なまる

おくてなるのなともまねく新勅　(おくとおうつまの同上)

人もをしねとなまる　仁和寺宮

風雅恋四

秋なれや荻の葉もふおとつれて　宗于朝臣

新千載中納言公行卿の名乙一字後約ス

続後撰恋三　(ふかきけん続後)

あるかなきかにおくもむ玉すけあて　(のこ同立)

中宮侍従なまる

露のなさけをかくるなるへし　延喜皇后宮

かつもみさをの色ハ(諸本)　元輔朝臣

題ふ知　　中納言行宗

人もをしねとなまる

新勅撰恋三　(ふかきけん続後)

あるかなきかにおくもむ玉すけあて　(のこ同立)

中宮侍従なまる

露のなさけをかくるなるへし　延喜皇后宮

かつもみさをの色ハ(諸本)　元輔朝臣

題ふ知　　中納言行宗

新千載恋三　(ふかきけん続後)

月をのみまちいつる秋の夜ふかく　基俊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

洞院摂政家百首 従二位家隆

続古今恋三
ふるさとへのこよひばかりの

左京大夫顕綱家会

新十載恋三
さのみやはきみもこころをつくすべき

後京極摂政家六百番歌合

新後撰恋三
あふまでのかたみにぬぎてとめおきし

寂蓮法師

ころものつゆを

後恵法師

権律師弘

新千
ろくにんのみちのくにゆきける

いつまでとさだめてきみをたのむべき

浜島羽院法皇御時社頭恋

こころのつまをみをむすぶかな

源家長朝臣

新十載別
あるにたえぬこころをつもりさらん

和泉式部

きえいらば

いとしくもあるかなしくもあるかな

和泉式部石山にこもりて侍りけるに

玉葉平五年十二月
[illegible]地位事[illegible]
駅衙[illegible]
[illegible]

玉葉旅

[illegible]

太宰帥親王敦道

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六帖 題不中ふ

続古今恋四
こるかのこのもるとのとふる秋尾のなまをなのこころん
むねさそ来侍あをけるころいひつそる

同恋二 監余婦
うき末の杜の下るおいぬもをといこつまるこひもおる事
うそう

同恋二
おもき末の杜のしたる老そそ の続古
人のをおもてはそう

風雅恋四 ふ
学の井いまもそこへふるとあいふるをそそふのよ
小まもち

たいふん
よみ人しらず
いそこそをるかのほやまそ
ふるをもへ人をわをそこそこそろふ

続後撰恋三
延喜御製
ふるをくそ
ほんもまをなこそよりおほめこをるほと事女
天暦御製
かるとも
続古今哀 ㊀本
ろ
続古 ㊁本
ろ
玉葉恋一
そもたのもこそんのほそろへ
源信明朝臣

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

伊勢
やまとうたのおくつきのみてぐらをなをおこせ
よろづよのあとまでも
山ぢのつもりもはてぬ後の世をかぎりとぞ思ふ
小野小町
古今恋三 ※続古
いとどしく過ぎゆく方の恋しきに
うとくもなりぬる中にやあらむ
素性
年長時
後拾遺雑四
春深き
藤原光俊朝臣

恋ひ死なば身をこの山の雲にいざ
なる
恋ひ死なば誰か歌をば詠むべき
天暦時代
陸信朝臣
恋ひ死なば誰か哀れと言ふべきに
一本
亀山院女房
みそぎする禊の河の瀬を早み
思ひ絶えなむ
乙暦時代
たのめつつ来ぬ夜ありとも思ひ寝の
あるものぞとは知らずやあらぬ
おもかげに見えつつ消ゆる面影の
身をうき草の根をたえてのみ

玉葉恋二 更衣源訶子
新後拾遺恋一

月ゆゑもなくやつまれし人のこと
思ひ出るも
天暦御製

月のあるときもあくがれなるを
なげくとは

玉葉恋二

圓融院御製

思ひ出る
月のあるをもうとまれし
ほどよりは
よみせてしかな

新後拾遺雑上

ことさきのとのこもりゐて
侍ひ大納言もち

玉葉恋五

ひさしくもまゐりこざりけるを
たづねさせ給ひて

左京大夫顕綱

たづねこぬ
人をまつ虫
鳴なべに
露さへそふる
袖のうへかな

続千載恋五

つれもなきものをおもひ
しりてもなほあはれとも
いはでやみぬる
人をこそ
うらみめ

玉葉恋三

思ひ出ぬ
ときの間だにも
忘れずは
恋しきことも
あらじとぞ思ふ

新後撰恋三

我ゆゑに
人をもつらく
思ふらん
心ぞつひに
よみぢまどはす

続後撰恋三

恋ひわびて
泣く音を
人の
聞くばかりなる
声にやはあらぬ

続後撰 恋四

とふまでこそはおもひそめしか

七月七日

同 恋四

こよひとてあふせもかはすたなばたの

暁近き空ぞうらめしき

小町

続古今 恋四

こもりえのしたにのみ朽ちし名の

六條入道前太政大臣

とふ人なきぞ悲しかりける

和泉式部

新後拾遺 恋四

ひとこゑのうきにつけてもあまたたび

あふとのみいのちをぞおもふ

玉葉 恋四

新後拾遺 恋二

いさやまだこのそこもみぬ人のこと

兼原季能

よもさらば思ひもなをぬ諸本

大炊御門前内大臣

ひとりねの夜半の衾や

をさむらん

よみ人しらず

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2　ガラス使用

続後 ま保二年内大臣
ゑの万そのおん名哥ゑ

中納言兼輔

ゆふまぐれさのゝ渡のあしまろに
人通ま稀の内大臣時の忠そ一まの名哥ゑ

続後撰恋二

よそにもふかまその渡の汝風
お中納言家

続後撰恋二 ゑゐ一ゑ

風とおとろかれぬる身をしらねは
民部卿長家

新拾遺恋二

たいしらす
和泉式部

ゆふされは海の延のあしまろに
小大君

新千載恋五 三条院女蔵人左近

伊勢の海の
まみのえのおきつ汝鳥
伊勢

ゆふされかたの海ならひの
二条院讃岐

新拾遺 雜中

八新拾

同じ心を

法印良守

おもふこと

千里雪

小侍従

新後撰 恋三

海路

権中納言長方

後鳥羽院御製

入道前中納言定家

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2　　ガラス使用

続千載恋二 こひしさは
まつやまとちきりし人のつれなくてたえぬつまとぬるゝ袖のな
みだなり　法橋顕昭

新千載恋二
深葉つひなきのあま人とそむはるこそぬ袖いまやと くも新千
名たゝ恋こそ人のよそめにつゝみなくこの涙
と　和泉式部

こゝ袖はふるきゆきのにあさつゆをしのほの袖よおもふやはる
なかしらむ　神祇伯顕仲女

君なくて猶あしのの浦かきむかへるとぬるゝ袖かし
齋宮女御

ぬきとゝむまくらはみなきとほしいまは袖のぬれける

和泉式部

身よりかく涙はいかゝなかるへきかゝる海にも汲やなきぬる
西行法師

月のまへになにはいかなほとゝの袖のゆくすゑをなかるこの涙の袖
六帖題おほ中に　前大納言為家

こゝ袖の涙となるそつゆのたゝきはなるゝこの浦はなきく
正三位知家

恋しらせてふきられぬ涙のかゝふるくも袖のうらみ
恋のおもひを　真昭法師

涙の袖しなきてそのいはまやものをおもひくらむ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

中務

おもふをもつ(二本)涙の川のせやなむ(ま二本)をとむるふ

洞院のさきうとの屋をみてよめる

その里に涙やをそふつをしのふるふもとみむ

西行法師

恋催馬楽

後拾遺恋一

初瀬山のをやまかりみのをとてをぬる袖のふ

石もるやまもつ川のふかつ恋やまつ

後拾遺恋二

おもふ人のをとつれをきけるをの秋のあるやをとてをとれん(二本)

洞院摂政家百首

恋三信り雑

後拾遺雑二

谷川のみつをみるしまのやをの秋のぬるところの

入道前大納言家

いつまでか野のをつもをもるをけむ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

おなじころ
あふの院甲斐
続後拾遺恋三
いつまでとうきぬるきむのとの
忘草よもゆるふ肥後
続古今恋四
かくとうきみくるものを紅の
延喜時代の更衣源清子
ふの一本
その中にもとふほどをかこと
女房大納言教光

五葉恋二
あさましのよやむまくるに
ふその時を内侍
むかしさしのよ人もきそのこ
法性寺入道前
大宰帥隆家白家
源顕國朝臣
後冷泉院御
権中納言長方
入道前
民部卿典侍

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

玉葉恋一

よしさらは海のはてにもよるへなき床のさむしろ
夢しらは　よしやしる
思ふとてもうきものゆへに打とけてさきまつたるらん
さねみ
しらさりしなかれしよりは思ひそめぬこの身かな
いつみしきぶ
見るまゝにちりてくるしなき身のはての嘆かれし
権中納言師俊女
同しくは世の中はてなきものと思ひしかな
殷富門院大輔
きこゆるなさそ

おほつかな誰かためにかきつる恋しさをこゝろにのこす
前中納言資実
久あるなつり
いつまてかまちはてにける世の中にあはれとおもふ恋のすさひや
皇太后宮大夫俊成
恋ひ侘のなかに
西行法師
かくなかしおほかたならぬたちのおやさしくもえるなき思ひしなれ
新拾遺恋二
うき世をなかさきなからもこゝろよ恋する我身やたへぬなかなる
平度繁
続後拾遺恋二
さ 続後拾
とにしくに身もなきつらしなきむすふてかくもかなしき
興風

続後拾　天暦[illegible]時[illegible]合

続古今恋四　[illegible]

[illegible]

続後拾遺恋二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とそさることけるはしもとこそまつとてもいと
むはこのそらひとつく
かくそなをもしそそそそしのつもるとハ
玉葉恋一
恋のこころを
まこと女
ぬへきそ
思ひあまりそなまくとさひきまるいのちそとも抱おもるる
後千載恋二ゑひしらす
浅二位家隆
ものおもふそらのけしきもわれそとも
恋をなく人のつもれる

新十 寛平后時后宮
奇合のこと

玉 恋のこころの中ふ

萬代和歌集巻第十二

恋哥四

洞院中宮御哥合のとき

よみ人しらす

新千載恋二
物おもふそらもわれをもるそらはひとしかるへきいろもなきかな

玉葉恋四
たいしらす
君すむる深き秋そとしをへてくるるかことにうつろふ

禽宮女房
もみちをは
ちらめそるとやおもふくるるも秋をうらみん

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

玉葉恋四
いそ人の見てもいかにもつらきかな
返し
よみ人しらず
同恋四
初瀬山ふもとの玉水ながれても
中納言為頼
同恋四
忘れなんいまはと思ふ時ぞとも
よみ人しらず
ながらへばまたこのごろやしのばれん
和泉式部
百敷や古き軒端のしのぶにも
徒拾遺恋五
伊勢
いにしへのしのぶもぢずりたれゆえに
十訓抄
いまさらに山のかけはしかけじとや
信実朝臣
いにしへのしづのをだまきくり返し
三條院御製
皇后宮媓子

新十載恋四

まちわびてふきんと思ふ(ふみ新十)おほつなることつてはるのあ
どりのくるふもなき(名一本)なほ待つる
むつまじくんいもとて年月のへてつるふもあるをぬつてまつ
恋はてふ
金波なき人のまもりや月をとてぬるものむすめむ
雁鳥百院摘家
サ将内侍

続十載恋四

えつまぬおもひはてふ年月をいのなる弁のことなきん
そらいーらす
西宮前左大臣
ふたのえんそ人のはらくもあんとも鳥

万

十二ノ二

続古 兼暦二年四月
内裏ふ合のふ

続後拾遺恋二

苔よりて恋ふ路をめ多なるてこもはるきりほを
無品親王 浦仁家
権中納言時
あさてあきくもけふうらめうらあるのうらうら
兼暦二年内裏後ろ合の歌
お中納言匡房

丹鶴叢書

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

後拾 恋のおとそくみ
付ここ

後古今 恋五

見しのみやこそ恋しかりけれ（つくさゝ孔後古）

法性寺入道前太政大臣の家の障子の絵ども

お中納言雅兼

旅ねする山やまふかみ夕霧に

恋ひわたるらむ宿ぞ恋しき

後古今 恋四

大宰大弐重家

くれなゐに涙のこぼれ染めしより

我身ながらも袖ぞ恨めし

十首歌奉りし時

右近中将雅光

うしとだにみえこそわかれ有明の

つれなき空の名残なりけり

式乾門院御匣

後古 恋のおの弁ニ

同 ここととて

後拾遺 恋五

来ぬ夜とをかぞ数ふる暁の（ミ後拾イ）

袖の露もあやなし

前中納言定家

時のまもいるさの山をまつ程は

恋ひじとぞ思ふ

登一本

詠め侘ぬる

平重時朝臣

恋ひわびぬ泣くねをだにも（諸本）

なのめに聞かむ人はなぐさめ

後古今 恋四

わが袖に思ふ人こそつらからめ

お大納言光敦

人をのみ恨みやはする

権中納言長方

続古 恋のこゝろの中に

続後 恋の歌の中に 京極前関白家肥後

玉 恋のこゝろを

続古今恋二
こひしなむくやしきのちの世まて我おもひをやおもひしらせむ
八條院高倉

同恋四
いつはりのわするゝをなさけとてうきは昔のむくいなりとも
後鳥羽院御製

まちけんも月さへそらにめくりしものをたのめし身を
肥後

続後撰恋四
恋わひぬ恋のやまちのたえぬるにふみまよふへきみちもなき身を
相模

玉葉恋三
とふこともなきよはおもひのうちにおもひわすらう
中に　重之女

同恋三
なくさむることそなき身に逢事もあらましものを恋のくるしさ
いのちなとうきにしもとまるらんのちのよをまつさる
山を
和泉式部

うき身をも何おもひけむおもひふたゝひぬるものとみゆけるものを
たもいしらまて

身のうさをなけきしはらぬるを物たくのうらやいのこと
遇不逢恋を
入道前摂政左大臣

絶えてはいつかはものを
おもひしらね
侍従仲成

うき物とおもひしにまさるつらさのなけきにまよふ

一本後
[illegible]
一本前
[illegible]
[illegible]
[illegible]

王 清慎公の女ふつえ
一ノ三

王 寄恋一

いとふてぬさとのまとふ春をみまくほをやいつまで
妻ゆゑかふのたけるは女のかと
つまこまろ

同恋五

あひ思ふ人とまれぬ人とをよりはなをおそふる
我恋ふるこのあまをのかと放とのそへく
小まろ

後後撰恋五

もいま後後

もろ人こそとさしけるかくかな
雨の後九条右大臣のかふつまこまる

万

王 清慎公の女ふつえ
一ノ三

王 寄恋一

いとふてぬさとのまとふ春をみまくほをやいつまで
妻ゆゑかふのたけるは女のかと
つまこまろ

同恋五

あひ思ふ人とまれぬ人とをよりはなをおそふる
我恋ふるこのあまをのかと放とのそへく
小まろ

後後撰恋五

もいま後後

もろ人こそとさしけるかくかな
雨の後九条右大臣のかふつまこまる

万

よみ人しらず

思ふことみまくほしきあまのかと
もろこし

つむとてもいのちをしてねまほしきかな
のくまてさそふ風しなかりせは

道信朝臣

経なからむとそ思ふをもろともに
きえくあまの女のかと

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2　　ガラス使用

新十載恋四

風ふくそさこそそるおとなれ九条前内大臣家歌合

日吉社三十首

薩原光成朝臣

続拾遺恋五

続古今恋二

まそのみおのんとくるる

辞内侍

玉葉恋四　さ一本ヒ

続千載恋五

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2　　ガラス使用

続後 久しくおとつれさる人につかはしける

同 恋の歌の中に

同 後朝恋の心を

人を恋ふることゝいふことを　権中納言俊忠

思ひきやんてとふことをあらそひのたむけし社もみのつれなかれ

恋歌あまたよみ侍るに　前中納言定家

続後撰恋三
いかにせむみつよろ社とゆひてこの世にかゝりしんのちきりを

不逢恋のこゝろをよみ侍る　建保御製

同恋四
むかしよりうきにはあらぬくもゐまてつれなき人のつらさをそしる

前摂政家の恋歌よみ侍り

同 恋のうたの中に

同恋五
偽とおもはて人を恨みんかはるならひの世こそつらけれ　尚侍家中納言

賀茂社の歌合とて恋を　前大納言資賢

同恋四
かきつめしうつゝの中とことはにおもひもはてゝ文なかれとや

後鳥羽院御時月前恋といふことを　大納言通具

続古今恋三
詠めこせやはしやる秋の月恋ひこそあれうさはかくこそのふ

三十首の歌の中に　従二位家隆

玉葉恋四
なかきよふる袖にいひやとひてしやつれなきぬ秋の夜の月

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

おもふこころを
めぐりあふもはかなき夢をなげきみて見果ての山
なぞなほもかけてたのめし月ごろを
お大納言基良

新後撰恋四 題不知
さくらもみぢいろあるよその月影ふうき雨ぞとささひそめつん
八月十五夜月ごろ忘れぬ恋を
サ将内侍

続古今恋三 新院ヶ将内侍
恋もこと月ごろをへてもらせまし
夜恋ごころを
権中納言国信

同恋四
心ひまもらせるもなくくらす（け一本）
心ひまもらせるもなくくらす（る同上）
月さへとひくるのみ

家会
恋佐月
桂改
正三位顕家

続拾遺恋四
後法性寺入道前関白太政大臣
後京極摂政前太政大臣家
恋
後嵯峨院御製
法橋玄昭

続古今恋三
題
平忠盛朝臣
あれ恋

続後拾　恋のうその中に

風　ふる白女のうと
ようようくれくれつ
うくう
左を大将朝光

玉徳四年内裏歌合

中納言敦忠

続古今恋四
ちぎりおきしその月と思ふもむ
恋のうその中に
久しくの玉ぼこ月よをまちえて
たいしらす　人麿
続後拾遺恋三（り続後拾）
まつるのやまふくもまもる我こ
馬内侍
風雅恋四
ふる風
わすれくさこやみのまもるとのこと
謙徳公

続古今夏
中納言敦忠
中納言敦忠
源重光
いつみ式部

さくのやうにあやめのそをふきそへて人をもとに
侍子内親王家にまゐりて
五節
夏しのもりのほとゝきすまつこゑをきゝつるかなと
(一本なく)
中納言定頼
ほとゝきすなくやさつきのしのゝめをねをやくらぶる
(一本ふくかせ)
夏ふかみわかふるさとのまつにこそおとせぬものとおもひしか
(一本き)
和泉式部
おもふそをなくさめて先のまふもみそてそゝめぬ旨のいふま
侍女のつほねをみそてそゝめぬ旨のいふま
うらもなくみそてこそまつ女のいつるをもむ
秋をふふそてあもく萩のそよ〳〵さそいふつの
女房もとよそのまゝ
申宮宣旨
大納言敦光

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

秋二十首

入道前摂政太政大臣

きつ秋の花つまこひまかくる庵のいやまさるやおもひこそまん

しるやもなひぬるも秋きのふけてすのまのあくるそ

（小本）

庵回社ふみて一宮の萩を

そこのそる萩の下葉のこ秋なさこころ宮のふるこのふ

大夫典侍

秋ことの下葉のもふあるも秋もそ人をそ

忘れ草の井ふ

藤原為季

新拾 ものおもふ

続千 人を月まつとを

新続古今恋五

あきことの下葉もよそふるも独ねんとおもさらんと

貫之同泊ふくる宮の合一作るふ

みをしらん

新拾遺恋二

秋もこふおくらむ袖のつゆの

人を忘れとなのふるの

きみ一屋

こころ月のさる月をも秋のちことをたるのそ

実方朝臣

（け続ナイ）

袖ふにまつをも月もまつひ秋ふれ

続千載秋上

仁和入道二品親王 兼性

月前恋

風のそとささやくおもふ月をまつめく

恋のおもひ

よしさらば

あまてらすかみのよそほふ人の姓風ふきそめてえそ恋ふる

玉葉のことの葉(三一本)のもみぢちる姓風いたらぬ宮ぢなりけり

権大納言隆親

おもひあまりいでそやとその葦たづも鳴やこのごろ

従大納言基良

おしてくるあやめやまもと指のねをひとふしあはれとや聞く

九条右大臣

よしさらば

新続古今恋五

杜風のあやしきまでぬ人をあくがれぬるみちのくり

右大臣通綱母

俤ぞたつ

続拾遺恋四

思ひやるこころのそこをしらぬまでくだくとなれや袖の浦波

千五百番歌合

恋のこころを

大蔵卿有家

恋ごろもうらみてかへす袖の色はなくまでしぼる夜恋のこころを

玉葉恋二

もろともにあはれとたのめぬとをも待夜人のつらさは

平宰相教盛

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

[illegible]言 右近権少将 忠岑

[illegible]もとのめぐりあひを待ちえてそ今はかぎりの命ともがな

基俊

[illegible]

よみ人しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為家朝臣

続古今恋四
山のまもまた秋もなき月影も（続古の一本）（一本）
おのつからなれよの夢ぞ袖に残る

同恋四
おのつからいつる秋よの夢ぞ袖に残る

従三位朝子

続後撰恋二
永きあの秋ぞと思ふもはかなきに（一本）
ぬるよの夢ぞ袖に残る

菅原孝標女

受ぬ秋ねの床のうく手枕に
なれよの夢ぞ袖に残る

従三位家隆

続古今（一本）

和泉式部

続千載恋三
よそながらもなれなれし五月の月をみるやとぞ思ふ（続千）

後法性寺入道前関白右大臣

後法性寺入道前関白右大臣の家の歌合に
暁恋を

皇太后宮大夫俊成

鳥のねもうとましものに人の来てこむ
ぬるよの夢ぞ袖に残る

前大納言経通

続後拾遺恋四
待もこぬ（続後拾）（ナシ）
逢保内裏五首歌の内恋を

うき秋もとひそもるあまの住の江の
ぬるよの夢ぞ袖に残る

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

遇不逢恋

忘めくもうきものまるかくみのの乱てまゝ絶みぬの月　為二本

続後撰恋五

つゝとそ心ゝ物こゝみのうらも身そこゝみなるこゝろ　修明門院大弐

千五百番哥合　寄月恋

続古今恋三

うき物と注うひしまゝ忘ぬのこゝろ社のみこそあるこゝろ　宮太后宮大夫後成女

寄鳥恋

こゝろとゝまるをひかる　後鳥羽院法華

こゝろこそゆるさぬまゝに忘うまくへてゆるのこゝろ　為二本

忘恋の外

こゝろの外に　飯富の院大納

こゝろをかぬ月こゝろ末ぬ秋もこゝろ忘ぬ人の情も　為二本

玉葉恋四題不知

くよるこゝろおこそ物をそこゝろ後うき人を身をまゝも　従二本　寂蓮法師

続後拾遺恋三　題不知

くそこゝろおこその後のこゝろ社　も続後拾　従二本　覚盛法師

つゝもくこゝろこゝろ　七一本

こゝろ　薩原元善

後拾　光明峯寺入道前摂政ふ恵十ろ〻ふ合ふ〻〻

後鳥羽院下野

冬ふのまみやきれなまぬとそ人のまものふ
　玉そ〻ふの舟ふ
ひまもこう衣ままする杜ふうこ
　前摂政左大ま
入道ふ指政ふ恵千そふお合てまた恵と
　ふ後資季

続後撰恋四
月草のおもてそれおこふのみまろの心ふうる
　宮ふ菅恵
　下野

続後拾遺恋三
石ひやおこれおやおへおこ一本ふ花ふの番ふうはてやまき一本
たいらひ
人まろ

家のみのまま里諸本ふいもとそ
　羅の袖恵ま
さこぬるふ袖ふまおのまふまこそ人ふ恵てこのるまま
玉そふおまを袖ひ恵ふ
　宗法院法表
　源師重朝臣

続千載恋三
恵てまてまみまるふ神のつまもる道ふまふ
　美法ふまふけるふ人のむもふんてをのひるを
おやのいさ給ふくまふまひみまるまこそ
　業平朝臣
女のをまもふ

続千載恋五

いもはらそらにきる　　寛方朝臣

うつゝのつゝみみゆる玉まくらみのおもかけやいさもる

のとろ　　よみ人しらず

おもかるゝ神もいさめすうつゝさへ夢路にまよふ

夢のあふせを

谷ふかみ木の根まくらむすひをきて我もとらぬ夢ぢなりけり

　　寄雲恋

こゝろ有風よふきそへよ雲のかよひ路たえもはてなん

　　よみ人しらず

はらへつゝみゆる玉ぐしのしめもあるよふ

続千載恋五

いもはらそらにきる　　寛方朝臣

うつゝのつゝみみゆる玉まくらみのおもかけやいさもる

のとろ　　よみ人しらず

おもかるゝ神もいさめすうつゝさへ夢路にまよふ

夢のあふせを

谷ふかみ木の根まくらむすひをきて我もとらぬ夢ぢなりけり

　　寄雲恋

こゝろ有風よふきそへよ雲のかよひ路たえもはてなん

　　よみ人しらず

はらへつゝみゆる玉ぐしのしめもあるよふ

続千載恋五

こゝろそらなる　　従二位家隆

ある神のおもてのゆふしめのきりかけてたゝる人もなしのふ

　　寄山恋

おく山のもみちをふかみ入人のこゝろもしらぬ秋のくれかな

　　寄風恋

こゝろはなのもとにくる夕あらしさそはゝいかゝ思ひそめけん

　　寄雨恋

神のまもるいつきの私うゑ初てさこそはぬれぬ袖もこゝろも

仮なるもとけぬ人まつ夜の雨

女のもとにまかりける男のまかりこしはてゝ

よみ人しらず

新千九
後鳥羽院下野

右を内侍ほそ
ほけれ
きいらん
二条院讃岐
下野
同恋五
おもひそめ
新千載恋三
二条院讃岐
新千

続後拾 宝治百首
土御門院小宰相
続後拾遺恋三
続千載恋四
祐子内親王家紀伊
薄
信実朝臣
丹鶴叢書

玉　三条右大臣の女御に
[illegible]せける

たいしらず　よみ人しらず

さとの[illegible]わが宿の[illegible]草とつみ[illegible]
人の[illegible]

和泉式部

[illegible]人の[illegible]
むさし[illegible]人ぞ[illegible]ける

延喜御製

玉葉恋二

くる[illegible]よの人[illegible]

題しらず　兵部卿親王 元良

[illegible]の[illegible]

新後拾　[illegible]女のもと
[illegible]

新後拾遺恋四

[illegible]の[illegible]

中納言[illegible]

[illegible]

中納言[illegible]

堀河院御時百首に逢不會恋を（逢一本）

修理大夫顕季

神もきゝて[illegible]のたゝ一よ[illegible]

題不知　よみ人しらず

[illegible]一よ[illegible]

修理大夫顕季家にて恋のこゝろをよめる

丹鶴叢書
国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』請求記号 117-2　ガラス使用

続後拾　九条右大臣ホ
つまくら　よくへくら

春のそらめやうぬまのかやは（体）　仲実朝臣

結ぼほれ通ふ心の内ながら

うかりしもめもあはれなりしも

女のもとにまかりける

九條右大臣

続後拾遺恋二

うきふしをおもひしらでやかれなまし

君保内表ホ

同恋三

あふことをたえてしのべとものをおもふ

新千載恋三

洞院摂政ホ左大臣ホ　薫望ウ依但馬

おいらくのうきこと名やとりそへんむしのねのみ泣ホ

忘れ草

後住なるを大事

住よしの岸よりとて忘貝

君保三年内裏ホ

お井納を完ホ

続古今恋二

あさぢふのをのの篠原ホ

いくよ経ぬいつみてをたてるくのことホ

続後撰恋五

いつみてをぬ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

続古 恋の歌の中ふ

平宣文家会合恋の心を

右少将

続古今恋四
あふまてハ心ハかるる毎の風まつそよるる袖もわひ
さらいはらす

同恋五
なるとていたのめおきてもいまの後のうきをいつるみるる

近江王
無更衣よる名を

延喜書法製

王葉恋一
うきてこそあるといつるめ涙の色をれもみち

内大臣の時の恋の心を

入道右衛門督

新千載恋五
もろこしまても舟のみちるるてふ人はこのそるふもちとに

兼好門院小宰相

おもふんと
けまてもろる恋やこるる死るふの人の契(くさの一本)ふもをまる

殷富門院大輔

玉そらふの年て
きるふ(き一本)ふくまの浦のうらふもる
稀ふることを

従二位家隆

里のまとまる舟ふあるふこをかるとのそ
二條院讃岐

時里も恋のみるるてを

皇太后宮大夫俊成

もろこしまて舟のみちるるてふ人はこのそるふもちとに

続古 寄名恋と

続古今恋五

[illegible]

秋 百一本

[illegible]

洞院摂政家百

[illegible]

[illegible]

万

新続古今秋下

[illegible]

花山院内大臣

[illegible]

法性寺入道前

[illegible]

後拾遺

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

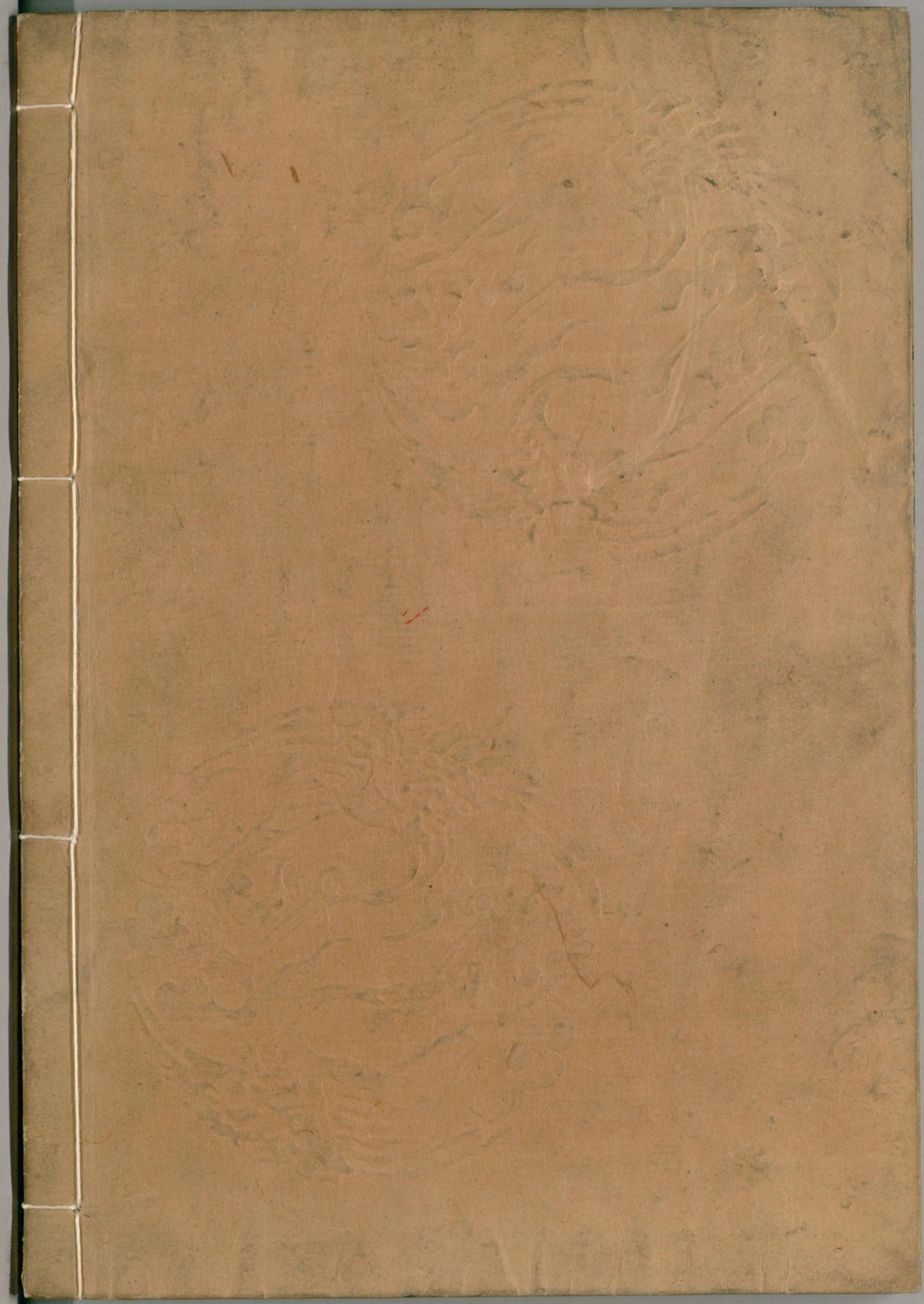
ガラス使用

117
105
2

玉葉恋四

十二ノ廿四止

万



国立国会図書館　　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用